

ま
ち
の
話
題

さわやかな春の魅力を存分に こどもり春物語ツアー



4月10日(土)～11日(日)にかけて、今年が3回目となる「こどもり春物語ツアー」が行われました。小春日和の暖かい天候の中で行われたツアーには、弘前市や青森市など県内を中心に42人が参加。初日はまず、「金多豆蔵人形劇」を観覧し、たっぷり笑ったあとは、十三湖岸公園や七つ滝など、町

の観光名所へ。七つ滝の前では、参加者全員で記念写真を撮影しました。夜に入ってから交流会が行われ、メバルやヒラメの刺身、若生のおにぎりにイカ焼きそばなど、こどもりの海の幸がふんだんに振る舞われます。合間には、よさこいやスコップ三味線など飽きさせない演出に、参加者は大喜びでした。2日目は、壮観な景色のライオン海道を通過して下前地区へ。「徐福の里物産品直売所」から、徒歩で町博物館下前分館を目指します。下前の急な坂道は、さすがにちよつとこたえたようですが、この日も散策にはちょうどよい日和で、このとおり皆さん笑顔でした。下前分館では、町博物館学芸員の説明に興味津々な様子で、特に田村進氏が学校(青森市野脇中学校)に描いた壁画は、青森市からの参加者が驚きの声をあげ、興味深く見入っていました。最後は、直売所でイカ



釣り体験と昼食。自分が釣ったイカをその場でさばき、そのまま昼食に添えました。弘前市から参加した女性は「去年新聞を見て参加したが、手づくりの歓迎に感動して、今年も参加したいと思って仲間を誘ってきた。今年は(昨年と)コースも少し違い、楽しかった。来年もまた来ます!」と、春の小泊を心ゆくまで楽しんだ様子でした。

東北新幹線全線開業に向けて

町モニターツアー開催

3月27日(土)、町のモニターツアーが町内各地で行われました。

町水産観光課の主催で行われたこのツアーは、新幹線開業で増加が見込まれる観光客の受入態勢の点検や、交流人口のアップを目指したもので、34人の参加がありました。

一行がまず向かったのは、平成20年にオープンした「徐福の里物産品直売所」。町内産の材料をふんだんに使った「タケ弁当」の昼食に舌鼓を打ちながら、買い物を楽しみました。

次は、小説『津軽』の像記念館に到着。像の前で記念撮影に臨んだ後、館内で太宰治と越野タケに関する貴重な資料を、歴史を語る会会長の柳澤良知さんの解説つきで見ました。



最後は、平成21年に新たにオープンした「金多豆蔵人形劇場」での劇鑑賞。もう町ではおなじみとなったこの劇ですが、相変わらず大爆笑の劇で、終始笑いに包まれていました。

最後に笑いで締めた34人は、駅からストープ列車で帰路につきました。

土木 建設工事 作業員募集

安全と技術と伝統を大切に!!

東栄建設株式会社

●青森募集事務所 〒037-0305 青森県北津軽郡中泊町大字中里宇亀山500
TEL 0173-57-3215 携帯
所長 平間 康 元 FAX 0173-69-2417 090-3503-7301

希望される方は、お気軽に最寄りのハローワークまたは右の連絡先へ!

業種	土木	型枠大工	鉄筋工	重機オペ (クローラクレーン・ラフテレンクレーン)	とび工
定額	11,000~16,000円	13,000~19,000円	13,000~18,000円	13,000~18,000円	13,000~18,000円
月額 (23日稼働の場合)	253,000~368,000円	299,000~437,000円	299,000~414,000円	299,000~414,000円	299,000~414,000円

小泊地域から初の100歳顕彰者 佐藤キサさん 上寿の祝い家族とともに

町に新たな100歳長寿者が誕生しました。3月30日(火)に五所川原市相内のグループホーム「いこいの里」で、この日100歳の誕生日を迎えた佐藤キサさんに、国・県・町から100歳を祝う顕彰状と祝い金が贈られました。

佐藤さんは明治43年に旧小泊村に生まれ、子ども7人、孫15人、ひ孫18人が合わせて40人もいます。しかも、子ども7人は、

すべて健在といえます。

顕彰状を渡した町長は「見ると本当に若くて元気。まだまだ大丈夫だ。さらに長生きしてください」と、100歳とは思えない元気な様子にとっても驚いていました。

佐藤さんは、ご飯を食べるのが大好きで、グループホームのレクリエーションでは童謡などを歌うのが大好きといえます。長寿の秘訣を聞くと「多く考え

ない。きちんと3食を食べることだそうです。」



内潟療護園で 警察音楽隊が 音楽会

4月22日(木)、内潟療護園で青森県警察音楽隊による慰問演奏会が行われました。

この演奏会は、警察音楽隊の施設を慰問したいという呼びかけに同園が応じたもので、一度は設備の改修と重なり中止された演奏会でしたが、今回音楽隊の再度の呼びかけに、同園も喜んで演奏会の開催を申し入れました。

演奏を聴いたのは、同園・第



小泊診療所に 新しい先生がやってきました



小泊地域の医療拠点「小泊診療所」に、米田先生に代わって新たな先生が赴任しました。先生の名は、岩間正浩(いわまさひろ)さん。自治医科大学出身で、現在29歳の若い医師です。3月31日(水)には、町長室であいさつをすませ、早速4月から病院内での診察のほか、往診も行って精力的に仕事をこなされています。

そんな先生に、お話をうかがってみました。

— 小泊の印象はどうか？

私は八戸生まれなので海は身近にあったのですが、小泊に来てみての第一印象は、とにかく海がきれいだなと思いました。往診の途中で見た海岸線と海に浮かぶ岩木山が特にきれいで、非常に好印象を持っています。

— 人の印象は？

みんな明るいですね！若い人もそうですが、高齢のおじいちゃん、おばあちゃんまで、みんな元気です。こっちも明るくなります。

— 新たな職場には馴染めましたか？

看護師さんにはいろいろ助けてもらっています。それに、町の人と同じで明るいですよ。おかげで、楽しく働かせてもらっています。

— 最後に抱負をひと言。

小泊地域には医療機関がここだけです。そういうこともあるので、隣の高齢者生活福祉センターや、新たにオープンする2階のグループホームなど、いろいろな機関と連携をとって、医療体制の充実を図りたいと考えています。



2うちがたの入所者や、デイサービス・通所療護の利用者など約60人で、華麗な演奏・演技に静かに耳を傾けていました。演奏されたのは、日本の情景を感じさせる童謡や、行進曲、演歌など様々なジャンルの曲目で、演奏が終わるたびにたくさんの拍手が起こっていました。また、演奏中に行われたカラーガード隊の演技も演奏に華を添え、最後の曲が終わると、われんばかりの拍手と名残惜しむ声が響き渡っていました。入所者の男性は「生演奏を聴いたのは久しぶりだが、すごくよかった。このような活動は警察の信頼感につながると思う」と話していました。

日本代表入りを目指す！

中里クラブ近村氏、村上さん 大会優勝報告

4月12日(月)に、中里クラブ監督の近村勝男さんと同クラブ所属の村上莉羽さん(中里小5年)が町長室を訪れ、卓球大会での活躍を報告しました。

今回報告されたのは、全国ホープス選抜卓球大会優秀チーム選出と、東アジアホープス卓球交流合宿日本代表選手選考会青森県予選会での優勝です。

村上さんは、予選会での優勝に「プレッシャーがすごかったが、がんばった甲斐があった。うれしい」といっていました。特に、この東アジアホープス卓球大会で全国上位12人に入ると、アジア大会への切符が得られるため、村上さんは張り切っていました。

監督の近村さんも「アジア目指してがんばってほしい」と、村上さんの活躍を期待していました。



今年度も、交通安全を願って読み聞かせサークル「ほっとけーき」(代表 成田いね子さん)のみなさんから、黄色い交通安全

の成田さんから贈られました。ほっとけーきの皆さんは、小泊小学校で読み聞かせボランティアの活動を行っている活発な



安全旗を贈られたのは、下前地区から通う小泊小学校新1年生 柏崎帆乃佳ちゃん。小学校の入学式で代表

読み聞かせサークル
ほっとけーき

児童の交通安全を願って 交通安全旗を寄贈

団体で、安全旗は、下前地区スクールバス発着地点近くの横断歩道を、安全に渡ってほしいという願いから作られたものです。ほっとけーきの皆さんは、「この旗が安全を見守り、事故なく元気に学校へ通ってくれることを願っています」と話していました。

観光シーズン到来に備えて 小泊地域海岸 清掃奉仕

4月24日(土)、小泊地域の海岸清掃ボランティアを150人余りの人が行ってくれました。

この清掃活動は、地域に対する奉仕活動の一環で行われたもので、建設会社教社を中心し、朝早くからごみ拾いなどの清掃奉仕を行っていただきました。



5か所の海岸と、沿道の道路を清掃しましたが、特に海岸には打ち寄せられたごみがたくさんあり、本当に大変な作業でした。

しかし、たくさんの方の協力もあり昼前には作業を終了。昼食時には、町長から感謝状が贈呈され、ボランティア活動を行ってくれた皆さんの労をねぎらっていました。

縁の下の人

交通指導隊中里支隊

松江唯四郎さん(66)

「春の交通安全運動」期間中の4月13日(火)、薄市川にかかる橋の交差点で、朝早くから街頭監視にあっていた松江さん。ボランティアでこのような活動を続けるのは「地域の安全のため」といいます。

「交通指導隊に入ったきっかけは、叔父さんが入隊していたからというもあり、そのまま活動を引き継ごうと入隊した。この活動に参加しているせいか、普段から交通安全に気を遣うようになった」



年間で20日間以上もこの活動に参加している松江さんは、このほか夜回りなどにも参加し、地域の安全確保に貢献しています。